

赤こんりポート 東恵子リポーター



優しい旨味のおせんべい完成!

(福) おうみ福祉会・おうみ作業所(加茂町)では、開所当時から障がいのある人が、せんべいを焼いて看板商品となっています。そこで、イカリファーム(野村町)で収穫した小麦粉(強力粉)を使って「コラボせんべい」の企画が持ち上がりました。かねてから地域貢献したいと考えていたイカリファームの井狩篤士さん。「小麦粉を提供することで、安心して食べてもらえる商品ができた」と喜んでます。一方、作業所では心を込めて焼き上げる利用者さんの姿がありました。真夏は室温も高く、立ち仕事ですが「楽しいです」と、話していました。これからも生産者と地域の作業所などの連携が期待されています。

赤こんりポート 馬場利男リポーター



ニュースポーツを楽しもう

ジュニアリーダーがお互いの交流を深め、仲間づくりの大切さを学ぶスポーツ体験が7月3日、市子ども会育成会連合会が主催し運動公園体育館で行われ、市内の小学5・6年生のリーダー46人が参加しました。この日は、パラリンピックで行われるボッチャとファミリーバドミントンに挑戦。新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、市スポーツ推進委員の指導のもと取り組みました。最初は戸惑っていたリーダーたちも、慣れてくると率先して取り組んでいました。今後、市内でジュニアリーダーの取り組みが広がることを祈ります。

赤こんりポート 今井良治リポーター



「スエばあちゃん食堂」で2年ぶりに「流しそうめん」

地域の一人暮らしの高齢者も集う末広町のこども食堂「スエばあちゃん食堂」で「流しそうめん」が7月17日、正明寺の境内で2年ぶりに実施されました。同食堂は家庭の事情で夕刻になっても、自宅に帰らずお寺の境内で遊んでいる子どもたちに、真心のこもった食事を提供できればと、地域のボランティアにより2016年に始まり、今年で6年目を迎えます。この日は、新型コロナウイルス感染防止対策が実施される中で、集まった約40人の子どもたちや高齢者らは、スタッフが次々とゆがいて流す、合わせて約70束のそうめんを競うように次々と割り箸ですくいとって、のどごしに涼味を楽しんでいました。

赤こんりポート 松村美沙枝リポーター



コロナ禍でも、ずっと勉強頑張っています!

現在市内では土曜日の夜(金田・安土)と水曜日の朝(金田)に、外国籍の人のための日本語教室が開催されています。慣れない日本での生活をよりスムーズに過ごすため、また仕事や資格のために長い人は5年以上、感染対策をしっかりと守りながら皆さん真剣に、ときには楽しく学んでおられます。生徒さんたちの熱心さや礼儀の正しさは本当に素晴らしく、私たちにも見習うべきところが多々あるほど。講師ボランティアも募集中です!お問い合わせは(公財)近江八幡市国際協会 ☎(26)7092 まで。

8月2日



親子セミナーでお金の大切さを学ぶ「おかねのね教室」

市消費生活センターが、ひまわり館で「お金と物の大切さについて」をテーマに親子向けの学習会を開催しました。未就学児から小学5年生までの子どもと保護者の計44人が参加し、DVD鑑賞やクイズ、同センターからプレゼントされた色鉛筆を使った貯金箱の工作で楽しみながら学んでいました。参加した子どもたちは、「お金は大切だと思った」「貯金箱を作るのが楽しかった」などと話していました。

8月5日



愛らしい西の湖の生き物たちがゆらりモバイルづくりのワークショップ

安土コミュニティセンターで、西の湖に生息する生き物をモチーフにしたモバイルづくりのワークショップが開かれ、市内外から3歳~11歳の子どもとその保護者あわせて12人が参加しました。アートを通じて子どもたちに西の湖を取り巻く自然環境を学んでもらおうと活動している「西の湖あそび隊」が企画。

当日、参加した子どもは図鑑や絵本などを参考に絵を描き切り取った後、支柱となる流木にテグスとモチーフを結び付けモバイルを作りました。完成した作品は会場に吊り下げられ、風になびいてゆらゆらとゆれる色とりどりの作品を参加者は笑顔で見つめていました。

7月18日・31日



大きな魚に「すごい」の歓声 夏真っ盛りの宮ヶ浜で地引き網体験

沖島町の宮ヶ浜で、18日に「はちまん青年経営者会」主催、31日に「琵琶湖お魚探検隊」主催の地引き網体験が開催されました。

引き上げられた網には、琵琶湖固有種のビワヒガイや在来種のオイカワ・コイ、外来種のブラックバス・ブルーギルなど大量の魚が引っ掛かり、参加した子どもたちは「すごい」と歓声をあげながら、われ先に魚をつかみ取り、感触を楽しんでいました。

8月1日



西の湖でカヌー日本代表選手とカヌー体験教室

カヌー日本代表選手と気軽にカヌーを楽しめる体験教室が、西の湖に臨む安土B&G海洋センターで行われ、市内在住の9歳~65歳の36人が参加しました。コーチを務めたのは、カヌーの世界選手権で日本代表選手として出場した経験を持つ奥田翔悟選手と小椋孝行選手の2人。

当日、両選手からカヌーの乗り方やパドルの扱い方を教わった参加者たちは、2人1組でレジャー用のカヌーに乗り込み、西の湖へ漕ぎ出しました。初めはうまくカヌーをコントロールできなかった参加者たちは、両選手にコツを教わってもらうと徐々に慣れ、気持ちよさそうにパドルを動かして、西の湖でのカヌー体験を楽しんでいました。